

## 谷・中村の三つのお祭り

佐藤 龍江

### (一) 糺 (いのこ)

私の集落、旧谷村の中村では、明治四十四年頃より、今年で百年続いている糺があります。その頃の戸数は、「泉組・十六戸」、「田の平組・十三戸」、「大向組八戸」、「葛小野組・九戸」四班で四十六戸の家がありました。

その頃の子供の数が三十六名位ありました。現在では、中村の戸数は三十二戸になりました。子供の数は八名にまで減少しました。それでもずっと現在まで続けています。藁を丸く束ねて叩き棒を作ります。お米が沢山出来ますようにと、大きな声でみんなで歌いながら、地面を叩くのです。モグラが居なくなりますようにと、なんども何度も叩きます。

その歌は、「今夜の糺、祝わん者は鬼産め、蛇産め、角生えた子産め、祝うた門には福来る。最後にもひとつ添えちよけ、も二つまけちよけ。」と言って終わります。

今頃の子供はあまり歌がわからないので、私が大きな声で仲良く楽しく歌います。終わりますと家々の手づくりのご馳走をいただきます。このころはお店で買うのが多くなりました。糺が長く続きますようにと祈るのみです。

### (二) ひまわりの蛍祭り

谷・中村のひまわりのお店が始まって早や十三年になりました。前会長であります平田久仁明様と、現会長の獅々賀福雄様のお計らいで、毎週の土曜、日曜に、早朝より組合員の皆様で新鮮な朝採りの野菜や、きれいなお花、手作りの和服・小物。平田通子さんの味付けの良い手料理。梅木孝子さんの美味しいイースト饅頭などあります。

待ちに待った年に一度の蛍祭りが六月初旬にあります。多くさんの蛍が乱舞、それはそれは大変きれいです。ひまわりの横に昔からの湧水がありまして、迫の水と言って中村中の人達がバケツをもつてよく汲みに行つたものです。

迫の水のお陰によってたくさんの蛍が生れるのです。その水も、大龍井路、提子井路、鑰小野井路（現芹川井路）など、生涯を井路開発に捧げた郷土の大恩人・

工藤三助様のお陰です。大恩人を讃えて漢詩を作りました。

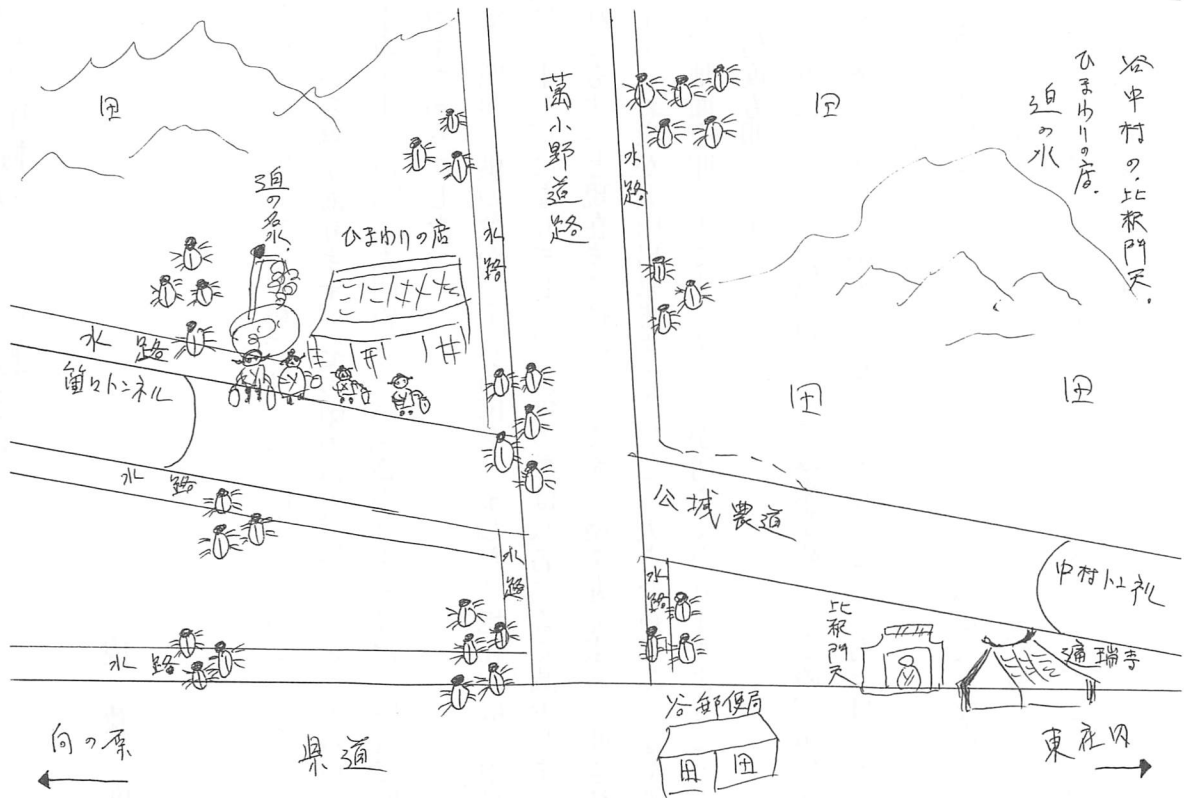
「工藤三助を詠ず」

滔滔タル治水郷田ヲ潤ス

地域ノ民情無辺ノ喜ビ

開鑿ノ山巖艱難ヲ極ム

溝渠ノ提子史偏ヲ伝エン



### (三) 子供神輿

毎年八月十三日のお盆に子供神輿が出て、古里帰りの子供も仲良く、お神輿廻しをし大人も協力して、各家を一戸一戸廻ります。花火をパンパン、ボンボンと打ち上げてそれはそれは大変賑やかになります。

周り一面がまるで白い雲がかかったようで、子供の顔も見えない位になり、子供は大喜びで花火を振り回しながら、火の子を蹴飛ばして廻ります。

中村の子供は勇壮だ。元気、大元気。前日から神輿や白襷をきれいに洗って、神輿に襷掛けをしますので。全部自分達でします。

八月廿三日、毘沙門様のお祭りです。夕方の六時より、道路の両側にローソクを立てます。七時に火をつけてそれぞれ大変きれいです。

七時三十分より踊りが始まりまして、九時頃から全員で毘沙門天のお供えのご馳走を、子供と仲良く楽しくいただきます。

今年で七十一年目になります。



中村子供みこし祭り